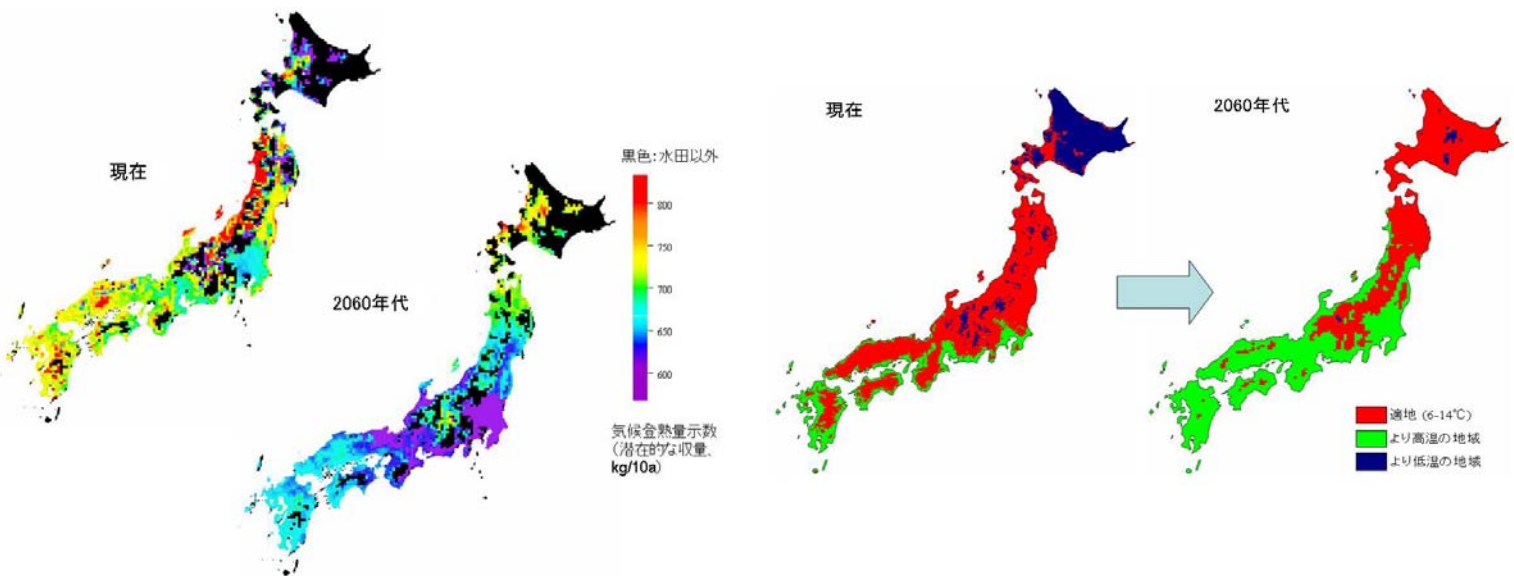


「地球温暖化が農林水産業に与える影響と対策」ポイント

1 地球温暖化が農林水産業に及ぼす影響の将来予測

- ① 2060年代に現在よりも全国平均で約3℃気温が上昇するシナリオでは、
- ・水稲収量は、北海道では増加し、東北以南では減少する。
 - ・リンゴの栽培適地は、徐々に北上し、北海道はほぼ全域が適地になる一方、関東以南はほぼ範囲外となる。
 - ・ウンシュウミカンの栽培適地は、現在の西南暖地沿岸域から南東北の沿岸部まで拡大する。
 - ・肉用鶏の産肉量は、西日本で大きく低下し、15%以上低下する地域もでる。



・米の潜在的収量への影響

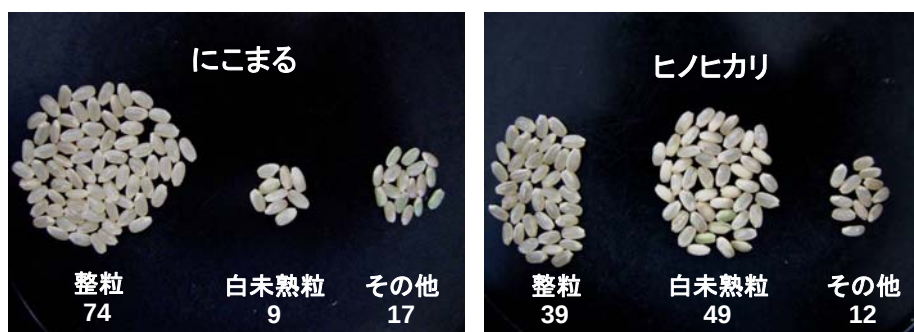
・リンゴの栽培適地への影響

- ② ブナの生育適地は、2081～2100年に現在よりも平均気温が約3℃高まるシナリオでは約40%に減少し、約5℃高まるシナリオでは約10%に減少する。
- ③ サンマの漁場は、現在、北海道東部の根室沖であるが、100年後では水温上昇により日本近海ではほとんど無くなる。

2 地球温暖化への適応策

①水稲:

- ・登熟期間の高温による白未熟粒の発生は、遅植えや直播栽培により減少する。
- ・高温でも白未熟粒が少なく、外観品質の良い水稲品種「にこまる」などを育成。



同一出穂期の「にこまる」と「ヒノヒカリ」の品質比較
100粒中の整粒、白未熟粒、その他の数。「にこまる」は整粒が多い。
(2005年(高温年) 長崎県総合農林試験場)

②果樹

- ・高温によるブドウの着色不良は、環状はく皮により改善する。
- ・成熟期の高温によるカンキツの浮き皮が発生しにくい品種「石地」「たまみ」などを育成。



ブドウ(安芸クイーン)の着色不良を改善する環状はく皮処理

3 地球温暖化の緩和策

- ①水田で発生する温室効果ガスであるメタンは、中干し、それに引き続く間断灌漑により、米収量が変わらずに、大幅に減少する。
- ②複層林を含めた森林管理などにより、炭素の蓄積が維持・増大する。